

オリンピック開催を視野に入れた 東京の文化政策について

2014年6月30日 仲道郁代

目的と、目指す方向

東京都が、新しい文化政策のモデルを作り、



東京に定着させていきながら、全国に広める



人々が相互に理解し合える、住み良い成熟したまち東京を、
国内外にしっかりとアピールする

今、つながりの強化が、求められています

- 相互に理解し合うために・・・ 外国人⇔日本人 私⇔あなた お年寄り⇔子ども
- 成熟した社会のために・・・ 福祉⇔音楽 東京⇔地方
- 「表現」のため、理解を深めるために・・・ ダンス⇔美術
- 子どもたちのために・・・ 学校教育⇔公共ホール

などなど、

さまざまなシーンで、あらゆる方向に向かって、つながりの必要性が高まっています。

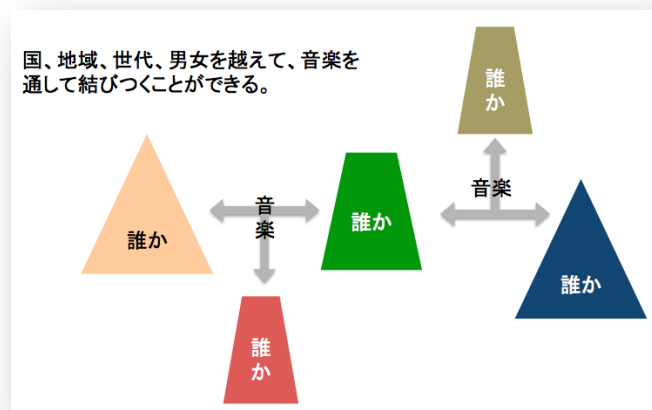
提案！

人と人の相互理解を育み、文化政策を活性化させるために、

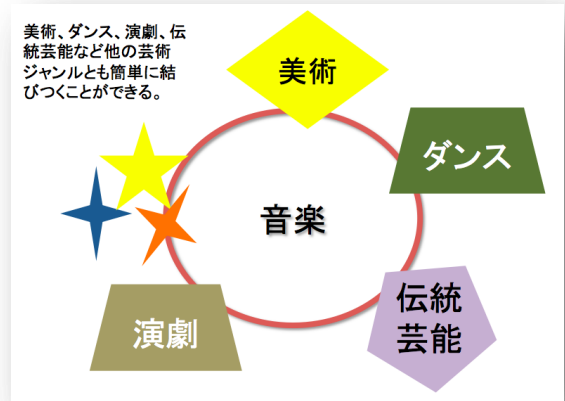
音楽の力を利用しましょう。

音楽の力とは？

人と人をつなぐ力！

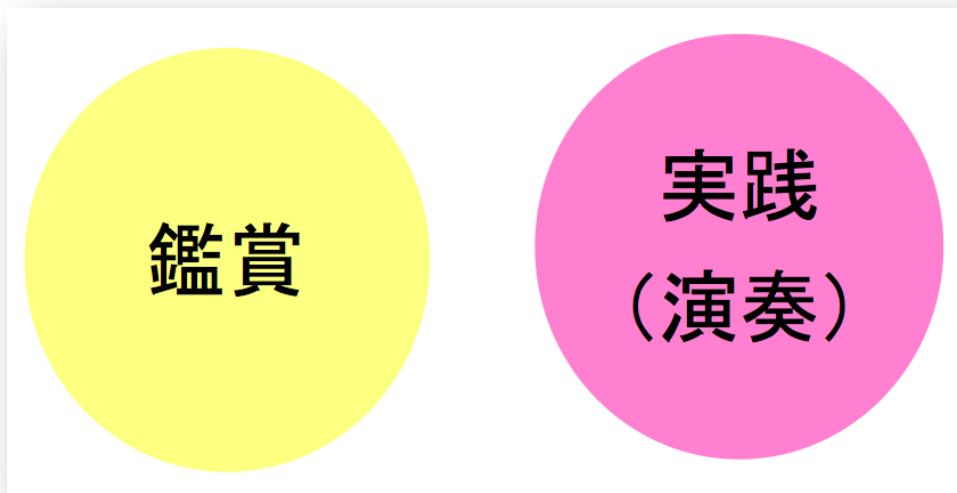


音楽は、多様なものと結びつく

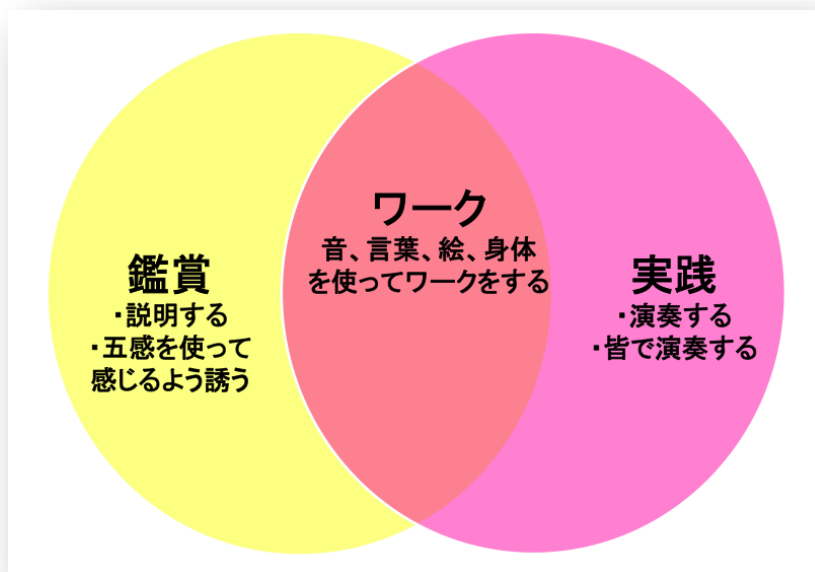


音楽の使い方はさまざまです!

音楽には2つの側面がありますが、



「ワークをする」という面もあります。



ワーク→体験と対話をともなう

ワークをすることによって、

- 他者を認め、自分を知る機会となる
⇒ コミュニケーション能力を高めることができる
- 創造性を育むことができる
- 想像力を高めることができる
- 音楽をより深く理解することができる

芸術文化を活性化させるためには、

体験と対話をとものう複合的なプログラム

が有効



そこに**音楽**は大きな力をもつ!!

体験と対話をとものう文化プログラムを実施することによって、

- 芸術文化を体験を通して身近に感じ、
素晴らしさを実感し、深く享受することができるようになる
- 体験を共有することによって、相互理解の大きな助けとなる
- 異分野とのつながりによる刺激によって、参加した者同士で創造性を発揮しやすくなる

複合的なプログラムとは？

- 新しいもの+古いもの
- 音楽+教育現場
- 音楽+福祉現場 など、

さまざまな「つながり」によって、生みだされるプログラム。

それにより「見せる」だけではなく「魅せる」ものとなる。



どこをつなぐか、どうつなぐか

◆内外をつなぐ◆

▶□「日本文化ホットライン（仮）」、「東京の今（仮）」などを作り、インターネットで発信。YouTubeにて東京文化プログラムがいつでも見られるようにする。

▶□英語表記を徹底する。

博物館や美術館の展示、公共ホールの案内表示、文化プログラムに関するイベントのポスター、チラシなどにも、積極的に英語表記を載せる。

英語表記の建物などをカタカナにする時の細やかさが必要。

例) GRAND FRONT ⇔ グランフロント、KNOWLEDGE CAPITAL ⇔ ナレッジキャピタルというのは分かりにくい。

▶□地下鉄オリンピックパス、スポーツと劇場のパスなどがあると便利。

▶□海外に日本をテーマとした作品を委嘱、日本国内にも日本テーマの作品を委嘱。両方を国内外で発表する。

▶□日本の伝統芸能と海外アーティストとのコラボ企画をする。

例) オペラ演出で日本伝統芸能を/歌舞伎でシェークスピアを

▶□日本文学、日本の戯曲による作品を海外のカンパニーにて上演する。

▶□各小学校での各国を調べて学ぶプログラムに、一緒に体験し語り合うプログラムも導入する。

◆人と人をつなぐ◆

▶東京内に各文化をテーマとするエリアをつくって名付ける。

自慢ブースを作り、観光案内も兼ねる。

▶街の語り部のシステムをつくる。

年配の方などに活躍いただく。(英語教育必須)

▶「シニア音楽オリンピック」を開催する。

楽器を問わず、60歳以上のアマチュアの音楽の祭典、コンクールとし、さまざまな賞を設ける。

▶目指せ！ 365日毎日コンサート

都内いくつかの小さな劇場、カフェ、空いたスペースなどなどにて、毎日若いアーティストの演奏会を行う。音大生など、企画制作にも携わらせる。他ジャンルとのコラボも推奨する。

◆東京と地方をつなぐ◆（東京都には地方に対する責任がある）

- ▶東京で何が起きているのか、何を目指しているのかを、逐次地方へ発信する。（地方が置き去りにならないようにする）
- ▶都内で、期間を決めて各都道府県ウィークをつくる。
地方の芸術文化を紹介する。
- ▶誰でも参加できるような歌、踊りを全国展開する。
- ▶テーマを持たせた地方制作の音楽・演劇の公演を巡回させて、最終的に東京にてフェスティバルとする。
- ▶地方の祭りを東京にて開催する。（地域創造の伝統芸能フェスティバルとのコラボにより、より盛大なものとする）
- ▶東京で制作した記念イベント、コンサートは全国展開をする。
- ▶聖火リレーと共に、地方から東京へ、子供たちの未来への手紙、音楽、歌などをつなぐ。

◆芸術と教育をつなぐ◆

- ▶学校教育に文化創造的プログラム（音楽に特化）を導入するためのモデル校を設定し、東京都独自のプログラムを作成する。

◆芸術と福祉をつなぐ◆

- ▶福祉の現場に音楽芸術の新しい手法を取り入れるためのプログラムをつくり、実践する。

実現のため、東京都のなすべきこと

人づくりと、人をつなぐ環境整備が急務!!

- アーツカウンシル機能の強化、もしくは、別枠にてアーツイニシアティブとしてのプラットフォームづくりと、専門的人材の投入。
- 東京アーツリサーチラボの音楽版をつくり、音楽による対話、思考、気づき、感動、に関わる人材の拡充をはかる。
- アートを英語で語ることができる人を増やすための教育機会づくり。
- アートに携わる人へのハローワーク的な機関をつくる。オリンピックだからといって、芸術系人材を**ボランティアにしない**システムを構築する。
- 学校教育と芸術の可能性を拡げる研究チームの設定。



これらについては、既存の団体への依頼、協力という形ではなく、
**東京都が新たなリーダーシップを発揮し、
新たな枠組みで進められることが、
オリンピックという直近の文化政策の通過地点を目指すためには大切
と考えます。**